

さくっと

テーマ

他大学院 進学



「さくっと」とは？

興味のある分野について、さくさくと勉強が進むように作成された調べ方ガイド（パスファインダー）です。

みなさんの学習支援を行うラーニングコモンズサポーターが作成しました。

ぜひ学習の際に参考にしてください。

作成：ラーニングコモンズサポーター 田川
発行：2018年2月 九州工業大学工学部付属図書館

1. はじめに

近年、工学部の学生の多くが、大学院に進学し修士号を取得した後就職するという進路が一般になってきています。本学でも同様に、約 6 割ほどの学生が、大学院に進学している状況です。進学先としては、本学がほとんどですが、昨年（平成 29 年度）は、大学院進学者の約 1 割ほどが他大学へ進学しています。受験した人数を含めると、2 割ほどに及ぶようです。他大学への進学理由としては、やりたい研究があるや、就職しやすいや、学歴を上げたいなど、理由はさまざまでしょう。私としても、もし他大学へ進学したいという意思があるなら、ぜひともトライしていただきたいと考えています。

今年度、私が他大学大学院を受験した時に経験したことをここに記すことで、同じ志を持つみなさんの助けになればと考えています。

● テーマに関するキーワード

他大学大学院進学、大学院受験、進路

2. 他大学受験のメリット

1. 自分の専攻を変えるチャンス

学部と同じ専攻で進む学生が大半なのですが、大学在学中にやりたいことが変わったという人も少なからずいます。そんな人は、他大学院受験で自分の専攻を変えることをお勧めします。専攻、研究室を自由に選べるので、全く異なる専攻に変えることが出来ます。ちなみに、私もロボット系から医学・バイオ系の分野に変えました。

2. 今以上のレベルの高い集団の中に身を置くことができる

今以上のレベルの高い研究室に行けば、それだけ周りはレベルの高い集団が多くなると思います。そうした環境に身を置くことで、意識を高く保つことができ、今まで以上に成長できるのではないのでしょうか。

3. 奨学金や学習プログラムの充実

希望する大学によりますが、例えば、本学の GE コースのようなカリキュラムに奨学金として金銭面で補助をしてもらえる制度を加えたプログラムが充実している大学もあります。他にも、国際交流を目的としたものや、異分野との共同研究を行えるもの、実際に起業を行えるプログラムなど、さまざまなものがあります。

3. 他大学受験のデメリット

1. 新しい環境に飛び込まなければならない

他大学に進学すると、今まで 4 年間生活してきた慣れてきた友達や先生方と別れ、一人で新しい環境に入ることになります。新しい環境にすぐ適応できる方なら良いのですが、適応できない方は不安やストレスに見舞われるかもしれません。

2. また初めから研究をやり直し

新しい研究室に行くと、今までの研究を引き続き行うことはほとんどないため、同じ研究を続けたいという方は、本学に残っていたほうがいいのかもかもしれません。

3. 他大学大学院進学の流れ

ここでは、私の経験をもとに受験までの流れを記します。

1. 大学院でやりたい研究を考える（3年夏休みごろまでに）

私は、1, 2年生の間に将来やりたいことをある程度決めていました。そのため、研究室のHPを見てやりたいことに合っているかを考えたり、担当教員や授業担当の教員に相談したりしていました。
私の場合は、感覚が感じられる義肢を作るための研究をしたいと考えていたので、
義肢の研究 → パワースーツ、電動義手、サイボーグ工学
感覚を感じさせる → 神経工学、医療工学、ブレインマシンインターフェース
などのキーワードで調べました。そして、いいと思った研究室を3,4個ぐらいに絞りました。

2. 興味のある研究室の先生にアポイントメントをとる（3年6月ごろ）

基本的には、メールでアポイントメントをとります。先生方は忙しいので、余裕を持って、研究室訪問をする日の2か月前ぐらいに連絡すると思います。このとき、大学院説明会などを薦められることが多いと思いますが、できるだけ1対1で話ができ、かつ研究室の雰囲気が見られる機会を先生方をお願いすべきだと思います。

3. いざ、研究室訪問へ（3年夏休み）

これが一番大切です。ここで自分に対していい印象を持ってもらえれば、推薦形式の試験で取ろうかと勧められることがあります。私もあったのですが、結局考えた結果、そこには受験しないことにしたので、後で断りました。研究室訪問の際に話した内容としては、

- 1) なぜこの研究がしたいのか
 - 2) この技術が実現したときの社会への影響
 - 3) やりたい研究がこの研究室で行うことができるか
 - 4) 現在の研究室では、こういった研究を中心に行っているのか
 - 5) 受け入れられる人数は何人か
- などです。

*このときに注意！！

その研究室の学生さんたちと話をする機会を作り、研究室の雰囲気、教授のイメージ、研究費がどのくらいかなど、教授には聞けないような内容を絶対に聞いてください。研究室訪問では、訪ねて来た学生はお客様なので、教授方はいつもの態度とは違うことが良くあるそうです。また、過去問の回答と院試で使っている教科書を教えてもらうのは、必須です。

4. 行きたい研究室を決める（夏休み終わり）

夏休み中いろいろな研究室を見て、行きたい研究室を決定します。

5. 受験勉強を開始（10月～受験当日）

文字通り、後はひたすら勉強するのみです。*他大学（特に旧帝大）は試験日が本学より一ヶ月先なので、モチベーションを頑張ってお保ってください。

6. 願書の作成と提出（4年5月～7月）

専攻によっては、小論文の提出義務があるところがあります。早めに願書を手に入れて、作成しておくことをお勧めします。

7. 受験（7月～8月）

基本的には、筆記試験と面接試験 + a（小論文、英語など）なので、しっかり準備して受験に臨みましょう。
私は、筆記と面接試験の方式と研究計画を発表する方式の二つを受験する予定でしたが、筆記と面接方式の試験は研究計画方式が受かったので、結局受けていません。

*私が受験した研究計画を発表する方式の内容をここに記します。

発表時間 7 分と質疑応答 13 分の合わせて 20 分です。事前に A4 一枚にまとめた研究計画書を提出し、その内容の説明をポスターを使って行います。その後、質疑応答を行います。質問内容は、研究の社会的意義やなぜこの実験方法をとるのかや、この研究をどのような形で社会に貢献できるかなど、研究計画書の内容に対して、細かいところまで突いてきました。ですので、研究計画書を書くときには、きちんと内容を順序立てて説明できるように準備しておきましょう。他の大学では、もう少し発表や質疑応答の時間が短い大学が多いようですので、受験予定の大学のホームページで確認しましょう。

● TOEIC、TOEFL のスコアの取得

多くの大学院入試において、TOEIC もしくは TOEFL のスコアを提出させる大学が大半です。そのため、できるだけ高いスコア（700 以上）を受験勉強を始める前に取っていれば、受験勉強に集中できるのでオススメです。私は 3 年の 9 月にある程度の点数を取得しました。

4. 受験しての感想とアドバイス

他大学受験を体験しての感想は、周りが遊んでいるのを見ると辛かったのですが、意外と楽しかったです。なぜなら、単に自分のやりたい分野のことだったので、勉強していて楽しかったからです。

専門分野を変更（機械・制御系→医学・バイオ系）したので、絶対受かるためにと早めに受験勉強を始めました。そのため、皆が 3 年の夏休み、冬休み、春休み、本学の大学院試験終わりの一ヶ月間などの期間に、遊んでいるツイッターやインスタを見ると、受験勉強をしている自分がアホらしく思えました。ですが、今後の将来の目標があったのと他大学を受験する友達がいたので、なんとかモチベーションを保ちながら勉強を続けることが出来ました。

アドバイス

モチベーションを保つ術を何でもいいので獲得すること、これなら確実に合格できるという状態まで、効率的に勉強して、最高の状態を仕上げることです。

私は、本学の大学院試を受けず、他大学一本で受験しました。逃げ道を完全になくすためです。そうすることで、これで落ちたらどうしようという、極度の不安にみまわれました。この対策として、自分を寝起きすぐに受験しても 100% 受かる状態にすることを目標に勉強していました。ふざけているように聞こえるでしょうが、これを本気でやるんです（笑）。そうすれば、その状態になる（なったかどうかわかりません）まで本気で勉強するようになっていました。あとは、効率良く勉強することです。

